

第2学年道徳学習指導案

日時 平成17年10月13日(木) 5校時
児童 男13名 女4名 計17名
授業者 片山 裕子

1, 主題名 みんなのものを大切に(4-(1) 公徳心・規則の尊重)

2, きいろいベンチ (出典 「道徳」2年 東京書籍)

3, 主題設定の理由

(1) 価値について

本単元における内容項目4-(1)は、「みんなが使うものを大切にし、約束や決まりを守る」を内容としている。これは、生活を送る上で必要とされる公徳心や社会規範を守ることのできる児童の育成をねらいとしている。低学年の子どもたちは、学校という集団を通して社会の基本的ルールを学ぶ。集団で生活するためには、みんなが使うものは人に迷惑をかけたりせず自分の物と同様に大切に扱い、みんなが気持ちよく生活できるようにしようとする心構えを持たせるようにしたい。さらにみんなと約束したことやみんなで守ろうと決められていることは、しっかり守ろうとすることが大切であることを理解させたい。そのためには、公共物や公共施設の使い方や利用の仕方に目を向けることで、なぜ大切に扱わなければならないかを十分に考えさせ「みんなが使うものだから大切にしよう」という意識を育てていきたいと考える。

この時期の児童は、自分の欲望のままに振る舞ったり、自分勝手な行動をとったりしがちである。これは自己中心的な考えが強く、人との関わりの中に自分が存在しているということの自覚が欠けているためと考えられる。

そこで、本時は総合単元「ふかめる」段階の「道徳の時間」として、「であう」の「道徳の時間」でつかんだ「学級みんなが使う物は大切に扱う」という心情を土台に、総合単元と組んだ活動と関わらせながら他者への意識を深め、公共の場を使用するときは約束やきまりを守り、人に迷惑をかけないように使おうとする態度を育ませたいと考え本主題を設定した。

(2) 児童の実態

2年生の児童は、明るく活動的な子供たちであり、休み時間に遊んだボールをしっかりと片付けたり、春探しの探検に出かけた時には落ちていたゴミを拾ったりしている。その反面、他人の立場を考えることが難しく図書館の本を乱暴に扱ったり、プール学習で使用するビート板の使用の仕方が乱暴だったりもする。みんなの物は大切にしなければならないということはわかってはいるが、誰も見ていないと「自分くらいならいいかな」「このくらいなら許されるだろう」といった自分本位な考え方をして自分勝手な行動をしがちである。自分が友達から受けた迷惑には腹を立てるが、自分がしている自分勝手な行為が他の人に迷惑をかけていることには気づいていない。また、2学期の学級活動として行ったオリエンテーションでは、2学期の生活を気持ちよく送るためにはどのようなことが大切かをみんなで考えていくことを伝え課題を持たせるとともに、児童に「みんなで使う場所や物の使い方」や「きまり」についての意識調査を行った。その結果、ほとんどの児童が、「みんなで使うものは大切に使っている」と答えている。しかし、大切に使うわけとしては、「みんなのものだから」と言う理由が多いが、大切に使わなければ自分や友達がいやな思いをしたり、迷惑をかける原因になると言うことにはまだ気付いていない。また、決まりについては、「きまりや約束はしかられるといやだから守る」とか、「みんなで決めたからなんとなく守る」といった消極的な考えが多かった。

そこで、このような児童に総合単元的な道徳学習を通して、公共物を大切につかうことや

他人に迷惑をかけないように気をつけること、また、自分もみんなも気持ちよくくらすために約束やきまりがあることに気付かせ実践的態度へとつなげたい。

(3) 資料について

雨上がりの公園でたかしたちは、公園のベンチに泥の付いた靴のままあがって紙飛行機を飛ばして夢中で遊んでいた。しばらくして、女の子がそのベンチに座りスカート汚してしまふ。女の子とその祖母のやりとりを見聞きしていた二人は、自分たちがベンチを汚したために女の子のスカートが汚れてしまったことに気づくという内容である。

衝動的な行為や自分本意な行動が、思わぬところで迷惑をかけていることに気づき反省する主人公の姿は、子供たちの生活場面でも身近にあり得ることであり、たかしたちの行動や気持ちに共感しながら自己を見つめさせることができると考えられる。約束やきまりを破る人の身勝手さを、迷惑をかけられた立場から考えることができ、みんなが使う物を大切に、自分もみんなも気持ちよくくらすためにどうしたらよいかを考えることができる適切な資料である。

(4) 指導にあたって

① 単元について

本単元「であう」段階では、「オリエンテーション」として学級目標を確認し個人目標を決める活動を通して、2 学期を楽しく気持ちよい生活を送りたいという意識をもたせられるようにしていく。また、「水泳大会」「プール納め」や「サラダパーティ」などの行事や学習活動と関連づけながら、道徳の学習『やぶれた本』では身近なみんなが使うものを大事に扱い、ほかの人に迷惑がかからないような使い方をすることの大切さについて考えさせたい。

「ふかめる」段階においては、「町内清掃」の活動を通して学校内のものから地域へと視点を広げ、道徳の学習『きいろいベンチ』では公共施設を大切に、約束やきまりを守ることが、明るく楽しい生活につながることに気づかせ、社会や集団の一員として他者のことを考えることを通して、みんなが気持ちよく生活するために、約束やきまりを守ろうとする実践への意欲をもたせる指導をしていく。

「ひろげる」段階においては、学級や児童会のきまりに照らし合わせて生活を見直したり、生活科の町探検野活動を実施したりすることを通して、公共の物や場所を大切にしていこうとする実践的な態度を身につけさせていきたい。

② 本時について

「つかむ」段階では、図書館のきまりや本の扱い方を想起させ、本時の価値への方向付けを行いたい。

「とらえる」段階では、場面の状況を捉えさせるために、挿絵の拡大図や紙板書を活用し、視覚に訴えることで理解を促したい。

「ふかめる」段階では、公園のベンチを汚してしまったことにも気づかないほど紙飛行機を飛ばすことに夢中で遊んでいる二人の気持ちに共感させる。その後、迷惑をかけられたおばあさんの様子や言葉を通して、身勝手なことをする人がいると嫌な思いをする人が出てくるということをとらえさせ、みんなが気持ちよく生活するために約束やきまりがあることに気づかせ、ねらいとする価値へ迫りたい。

「まとめる」段階では、これまでの生活を振り返り、公共物に対して決まりを守って大切に使ったり、行動したりした経験を紹介しあうことで、価値の内面的自覚を図りたい。

「あたためる」段階では、ゲストティチャーの話聞くことで今後の実践への意欲へと結びつけていきたい。

4, 総合単元的な道徳学習の構想

単元名 みんなのものだよ

ねらい みんなの使うものや場所を大切に、約束やきまりを守り人に迷惑をかけないようにしようとする態度を育てる。

段階	時期	児童の意識の流れ	学級活動・体験的活動	各教科	日常指導・その他
であう	8月 3週	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期もがんばろう。 ・廊下を走らないようにしよう。 ・遊んだ後のボールの後始末をしよう。 ・トイレをきれいに使うようにしよう。 ・さんがきまりを守って行動していたよ。 	学級活動 「今日から2学期」(オリエンテーション) 学級目標を確認し、みんながきまりを守って気持ちよく2学期の生活を送ろうという意識をもつ。		帰りの会 「今日のピカリ賞」 みんなで使うものや場所を大切にしたり、めあてや決まりを守って努力をしていた友達を紹介しあう。
	9月 1週	<ul style="list-style-type: none"> ・ビート板の後始末をしっかりできたよ ・プールの決まりを守って楽しく泳いだよ。 ・プールさん、ありがとう。 ・来年も約束を守って気持ちよく勉強したいな。 	学校行事 「校内水泳大会」 「プール納め」 プールの使い方を振り返り、楽しく活動できたことに感謝する。	生活科 「サラダパーティーを開こう。」 調理器具を大切に扱いサラダをつくる。	
	2週	<ul style="list-style-type: none"> ・学級や図書室本を丁寧に扱わないといけないな。 ・後の人のことも考えて、本箱にきちんと戻すようにしよう。 ・破れた本を見つけたら修理して戻すようにするといいね。 	道徳の時間 主題名 みんなのもの 4 - (1) 公德心・規則の尊重 資料名 「やぶれた本」 [出典 文溪堂] ねらい みんなで使うものや場所を大切に、人に迷惑をかけないようにしようとするようとする態度を養う。		
ふかめる	3週	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろ読みたい本がたくさんあるよ。 ・マナーや決まりを守って生き物について調べよ。 	学級活動 「本となかよし」 図書室のきまりを守り、本を大切に取り扱い高めていこうとする意識を高める。	国語 「海の中の生きもの」 図書館利用のマナーやきまりを守りながら、自分が選んだ海の生き物について調べる。	
	4週	<ul style="list-style-type: none"> ・登校するとき、ゴミを見つけたよ。 ・まちのいろいろなところにゴミが捨てられているなあ。 ・だれが捨てるのだろう。 ・ポイ捨てをしないようにしよう。 ・進んでゴミ拾いをしよう。 	児童会活動 「町内清掃」 みんなの住む町を大切に思いきれいにしようとする気持ちを持つ。	心のノート 「みんなのものを大せつに」 p64 ~ p65 みんなで使う場所のきまりについて話し合い、なぜきまりが大切なのか気づく。	
	10月 2週	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の都合だけでなく、みんなのことを考えないと迷惑がかかるんだな。 ・みんなが気持ちよく使うために約束やきまりがあるんだな。 ・みんなでする場所を大切にしたいな。 	道徳の時間 主題名 みんなのものを大切に 4 - (1) 公德心・規則の尊重 資料名 「きいろいベンチ」 (出典 東京書籍) ねらい みんなが使うものを大切に、約束やきまりを守ろうとする態度を養う。		
ひろげる	4週	<ul style="list-style-type: none"> ・学校をきれいに掃除しよう。 ・約束やきまりを守って、町探検をしよう。 ・これからも約束やきまりを守って気持ちよく生活したいな。 	学級活動 「くらしをみなおそう」 みんなが使うものを大切に、約束や決まりを守って生活できているかを見直す。	生活科 「町となかよし」 町たんけんを通して、商店街や公共施設などの利用のしかたに気をつけ、約束や決まりを守って活動をする。	清掃指導 「学校クリーン大作戦」 みんなで使う学校を大切にしようとする気持ちを持ち、きれいに掃除をする。

みんなが使うものを約束やきまりを守って大切にしようとする子ども

5, 本時の指導

(1) ねらい

みんなが使う物を大切にし、約束やきまりを守ろうとする態度を育てる。

(2) 展開

階	学習活動・教師の働きかけ	予想される児童の反応	支援と指導上の留意点
つ か む 5 分	1, 本が破れた原因を図書館のきまりに照らし合わせながら考える。 ○本がやぶれてしまったのはどうしてでしょう。また、どんな困ったことがありますか。	<ul style="list-style-type: none"> 大切に扱わなかった。 袋にきちんと入れなかった。 ページがばらばらで読めない。 気持ちよく読めない。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなで使う場所のきまりについて既習の「こころのノート」を使って想起し、本の破れた原因を発表しあい価値への方向付けを行う。
と ら え る 5 分	2, 「きいろいベンチ」を読んで、資料の状況をとらえる。		<ul style="list-style-type: none"> 場面の状況をとらえやすくするために、挿絵の拡大図や紙板書を用意する。
ふ か め る 20 分	3, たかしやてつおの気持ちを中心に話し合う ○ベンチの上から紙飛行機をとばして遊んでいたとき、二人はどんな気持ちだったでしょう。 ○スカートの泥を落としながら、おばあさんはどんなことを思ったでしょう。 ◎「はっ」として顔を見合わせた二人は、どんなことを考えたでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> 楽しいな。 ベンチの上からとばすとよく飛ばぞ。 もっと遠くまで飛ばそう。 スカートがこんなに汚れてしまった。 ベンチをこんなに汚してしまったのは誰だろう。 困ったなあ。 ベンチに乗らなければよかったな。 女の子に悪いことをしたな。 僕たちのせいでスカートが汚れてしまったんだな。 今度からは、みんなが使うものは気をつけて使おう。 みんなが使うところは、人に迷惑をかけないようにきまりを守って使おう。 	<ul style="list-style-type: none"> 疑似体験を取り入れ、泥の付いた靴でベンチに乗り、夢中で飛行機を飛ばして遊んでいる二人の気持ちに共感させたい。 おばあさんの姿や言葉を通して迷惑を受けた相手の気持ちにも気づかせたい。 自分本位の行動が、女の子やおばあさんに迷惑をかけてしまったことに気づいた二人の気持ちをおさえながら話し合う。 みんなが気持ちよく使うためには、約束やきまりを守らなければならないことをとらえさせたい。

まとめる 10分	4, 自分たちの生活を振り返る。 ○みんなが気持ちよくらせることを考えて、きまりの中で守っていることはどんなことですか。また、どんな気持ちになりますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級図書を元通りの場所に返すようにしている。 ・トイレをきれいに使うようにしている。 ・落ちているゴミを拾うようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの自分の行動を振り返らせながら、今後の実践へと結びつけたい。 ・ワークシートに書き発表させる。
あたためる 5分	5, ゲストティーチャーの話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会活動等で約束やきまりを守って公民館を使用したことで、後から使う地区のみんなが気持ちよく使うことができた話をしていただき、今後の実践への意欲付けをしたい。

6, 板書計画

おばあさんの顔絵

- ・こまっとな
- ・だれがよごしたのかな
- ・スカートがよごれてしまった

場面絵
①

- ・たのしいな
- ・ベンチの上からだとよくとぶよ。
- ・もっと遠くへとばしたいな。

写真

- きまり
- ・たいせつにあつかう
- ・ふくろに入れる。
- ・ゆずりあう

ふりつづいた雨
かみひこうき

きいろいベンチ

あのベンチの上からとばそうよ。

まあ、まあ。こんなとろだらけのベンチ
こすわって、スカートがよごれますよ。

二人は、はっとして顔を見あわせました。
……

みんながつかうものは、気をつけてつかおう。
きまりをまもってつかうようにしましょう。
めいわくをかけないようにつかおう。

7, 資料分析

